

イスラエルの
現代アートにおける
国際的な展望

山田亜沙

(東京都写真美術館 インターン)

イスラエルの現代アートにおける国際的な展望

山田亜沙

1 はじめに

2012年は、日本とイスラエルが外交関係を結んでから60年の節目となり、これを記念して両国で様々な文化的交流が行われた。その一環として、4月には、IKT 現代美術キュレーター国際協会の年次総会がテルアヴィヴで開催され世界各国のキュレーターが集う機に合わせて、駐日イスラエル大使館の招聘により日本から複数名のキュレーターが5日間に渡りテルアヴィヴを中心に現地を訪れ、イスラエルの現代アートに関する現地調査を行った。東京都写真美術館からは、岡村恵子学芸員がこのツアーに参加し、この調査がひとつの契機となって、2013年に東京都写真美術館で開催される第5回恵比寿映像祭において、イスラエル現代アートを紹介する上映プログラム^{*}を実施することとなった。本稿は、筆者がこの上映プログラム実施の準備業務に携わる機会をつうじて、イスラエル現代アートのもつ文脈と国際的な展開の背景について考察したものである。

情報のグローバル化とネットワーク化が進み、さまざまな情報を簡便に入手することが、旧来よりも格段に可能になったとはいっても、日本の観客にとって、東アジアとは文化圏の異なるイスラエルは物質的な距離以上にその存在を遠く感じる国のひとつであろう。そうした距離をいかに埋め、より実り多い文化発信を実現するかという課題を考えるなかで、国や民間団体による支援の役割とその実践のかたちに注目した。その一例として浮かび上がったのが、イスラエル現代アートを国際的に支援している民間組織 Artis である。Artis の実践をケーススタディとして取り上げながら、イスラエルの現代アーティストが近年国際的に活躍する背景の一端を紐解くと共に、文化支援の在り方と、国際交流において文化発信が担う可能性について考えていきたい。

2 イスラエル・アートの起源

イスラエルは第二次世界大戦後、1947年国連総会でパレスチナをユダヤ国家、アラブ国家、国連関連管理地区に分裂する決議を採択し、翌年1948年5月14日テルアヴィヴで初代首相ダヴィド・ベン＝グリオン David BEN-GURION によって独立を宣言し誕生した。

註1 上映プログラム「約束の地—イスラエル現代アーティスト特集」にて9名のイスラエル作家の映像作品を上映

註2 「イスラエル現代彫刻展」(原美術館、1994年)、p.6

イスラエル・アートの起源は建国以前の1906年とされることが多い。^{*2}この年は、エルサレムで最初の美術学校、ベツァルエル美術アカデミー (Bezalel Academy of Arts and Design) が設立された年である。1901年バーゼル第5回シオニスト会議に出席したラトヴィア出身の彫刻家・画家ボリス・シャッツ Boris SCHATZ が、シオニスト運動の主唱者テオドール・ヘルツル Theodor HERZL に対し、美術学校をエルサレムに設立することを宣言し、その5年後に設立された。設立当初、伝統的なユダヤの装飾工芸品がイスラエル美術の主な分野の一つとしてされ、この当時のイスラエルについて美術評論家のルティ・ディレクトル Ruti DIREKTOR は以下のように述べている。

20世紀初頭のイスラエルでは、人々はすべての行動にイデオロギー的な情熱をもってあっていた。そしてこの国にたどり着いた人々は、日常生活でも観念的な世界でもシオニズムに深くかかわっていたことを理解する必要がある。古くも新しくもあるこの土地で新生社会を建設するにあたり、新しい文化を創造すべきだという思いが大勢を占めていた。(中略) その頃までの作品はいずれも小規模で、芸術家というよりは職人的技巧に止ったもので、宗教に結びついていた。^{*3}

註3 「イスラエル美術の近代：新千年紀へのメッセージ」(神奈川県立近代美術館、2001年)、pp.20-21

多くのエルサレム出身の芸術家たちがヨーロッパで芸術教育を受けるなか、ボリス・シャッツは伝統的な装飾工芸品と美術を融合することによって、新たな芸術表現が生まれると考えていた。その後1929年にベツァルエル美術アカデミーは経済的に経営が困難になったため閉鎖するも、1935年に再開する。

1930年代から1940年代前半まで、ナチスのユダヤ人弾圧から逃れてきた人々で国内のユダヤ人の人口が増加した。1930年代イスラエルでは、ヨーロッパの美術学校を卒業した人々を始め、ドイツから教師と学生たちが流れ、そのうちの多くはバウハウス出身の者だった。のちにベツァルエル美術アカデミーは1969年に国立の教育機関となった。

この歴史的背景の影響は今なお見受けられ、現在ドイツへ留学し、その後国際的に活躍するイスラエルの作家が多く存在している。そして国際的に活躍するイスラエル作家には二つの傾向がみられることがわかった。ひとつは海外の教育機関でアートを学び、海外を拠点に活動している作家。もうひとつは国内でアートを学び、国内を主な拠点とし活動する作家である。イスラエルにおいてこの二つのルートを持つ作家たちが、どちらも国際的な活動が盛んであることは象徴的である。

3 イスラエル現代アートの紹介

1952年、イスラエルと日本の間の国交樹立以降、イスラエルの同時代のアートが日本で開催される展覧会で取り上げられる機会も生まれる。1962年には、読売新聞社主催による「イスラエル現代美術展」

が開催されている。^{*4}1990年代以降では、「イスラエル現代彫刻展」(福岡市美術館、1991年)、「イスラエル現代版画展：70 - 80年代の版画にみるエルサレム」(町田市国際版画美術館、1992年)、5人の現代アーティストが参加した「未来の記憶：イスラエル現代美術展」(佐賀町エキジビット・スペース、1994年)、「イスラエル美術の近代：新千年紀へのメッセージ」(神奈川県立近代美術館、2001年)、「イスラエル美術の現在：新千年紀へのメッセージ」(埼玉県立近代美術館、2001年)、「Dani Karavan retrospective」(世田谷美術館、長崎美術館、2008年)などが挙げられるが、同時代のアートを紹介してイスラエルという国を特集するかたちで行われた展覧会は数が少なく、またそのほとんどがグループ展であり、建築や映画、舞台芸術に比して、イスラエル・アートの代名詞といえるような固有名詞は、日本の観客には浸透していない。

しかし、過去10年ほど、日本で行われた国際美術展を振り返ると、強い存在感を示した作家の中に、イスラエル出身のアーティストたちが複数含まれており、彼・彼女らは、国際的にも活躍し、多くの注目を集めてきていることがわかる。

2008年、第3回横浜トリエンナーレにはケレン・シター Keren CYTTER とヤエル・バルタナ Yael BARTANA (2011年第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ、ポーランド館代表)、ガイ・ベンナー Guy BEN-NER が参加。ガイ・ベンナーは、翌年「日常の喜び」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、2009年)にも出品している。2011年、「ゼロ年代のベルリン：わたしたちに許された特別な場所の現在(いま)」(東京都現代美術館)に、オマー・ファスト OMER FAST が映像インスタレーションを出品。また同年の第4回横浜トリエンナーレでは、シガリット・ランダウ Sigalit LANDAU が参加している。

シガリット・ランダウによる横浜トリエンナーレ出品作《DeadSee》[写真1]は、死海に西瓜を渦上に並べた中に、作家本人がスードと一緒に漂っているもの。手を伸ばした先に漂う西瓜は赤い果肉がむき出しになっており、一本の紐で繋がれた連なる西瓜が端から解かれていく過程で、閉じ込められていた人が自由な方向へと泳いでいく様子は、アパートメント・ウォールによって人種が分離されたイスラ

註4 取り上げた展覧会は美術図書館連絡会(ALC)で、残されている展覧会の図版資料を基にしている

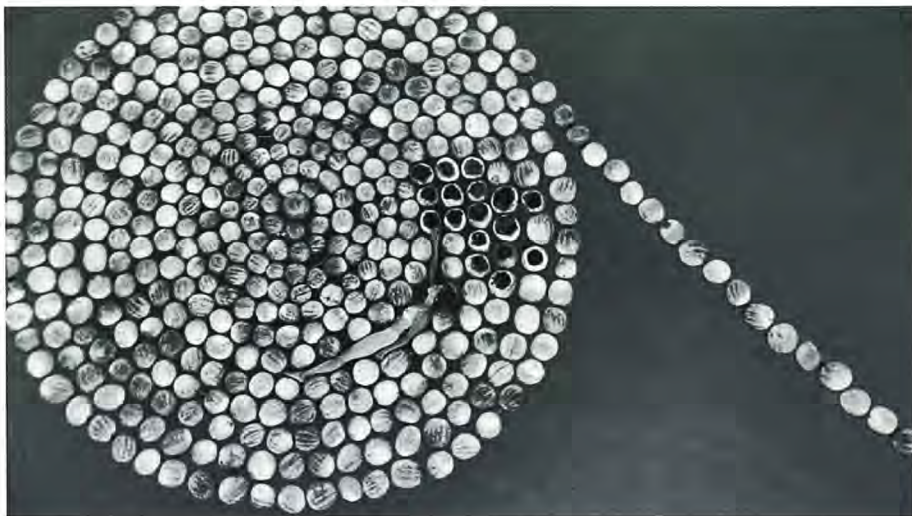


写真1 シガリット・ランダウ
《DeadSee》2005年(ビデオ、11分39秒)
(カラー図版→11絵P.11)



写真2 シガリット・ランダウ《Salted Lake》2011年(HD ヴィデオ、11分4秒)
(カラー図版→11絵 P.11)

註5 「Pen BOOKS ユタヤとは何か。聖地エルサレムへ」(ペン編集部編、阪急コミュニケーションズ発行、2012年)、p.162

註6 米国では「501(c)3」団体と称され、日本におけるNPO法人に相当する

artis ארטיס ארטיס

図1 非営利団体 Artis のロゴ

エルの状況を彷彿とさせる。ランダウはまた、死海をテーマに作品を作り続けており、2012年の雑誌のインタビューで「イスラエルとヨルダンに“橋”をかけたい、私たちにはヨルダンに水を提供する以外にできることがあるはずでは」と述べている^{*5}[写真2]。

彼・彼女らは皆、海外の大規模な国際展に参加経験があり、国際舞台での実践のなかで、自国の持つ政治的な課題を表現の内に抱えながらも、それぞれの問題意識を表現に結び付ける方法論に独自のスタイルを確立し得ているようだ。

実は、ここに挙げた作家たちは皆、Artis という民間の文化支援組織の支援を受けたことがあるという点で共通している。近年、国際的に目覚ましい活躍をする作家の背景にある、この支援機関の存在とその方法論に注目したい。

4 イスラエルの現代アートが国際的に活躍している背景——非営利団体 Artis による支援のかたち

イスラエルの文化発信に大きく貢献している国の機関や民間団体が複数あるなか、2004年にニューヨークで設立された Artis は、民間の非営利団体^{*6}で、ニューヨークの他にテルアヴィヴとロサンゼルスに活動拠点を置き、イスラエルの現代アートを国際的に支援している[図1]。

その一例として2011年、横浜トリエンナーレに出品したシガリット・ランダウは、同年ヴェネツィア・ビエンナーレのイスラエル館代表に選出されて個展を開催しているが、その際 Artis から助成金が出資されていた[写真3]。Artis は、大規模な国際展で活躍するアーティストの展覧会への助成の実績を持ち、Artis が掲げるミッションからその組織の在り方と方針をうかがうことができる。

4-1 Artis : 非営利団体としてのミッション

Artis 公式ウェブサイトには、団体としてのミッションが、以下のように表明されている。

Artis はアーティスト・コミッション、トーク・プログラムやイベントの開催、展覧会企画や能力開発に向けた助成制度、美術界のプロフェッショナルやコレクターのための調査旅行、能力育成への取り組み、および独自のウェブサイトなどによるオン



写真3 シガリット・ランダウ《One Man's Floor Is Another Man's Feelings》2011年(第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ、2011年における展示風景)

ライン情報源の充実などを通し、文化理解や文化的対話の促進を目指す。

Artis のプログラムは、イスラエルというナショナル・アイデンティティの複雑さを認識しつつ、イスラエルにおける在住・勤労経験を持つ、極めて優れた様々なアーティストを支援している。^{*7}

4-2 Artis : 創業者について

Artis 創業者兼理事長であるリヴカ・サカー Rivka SAKER は、サザビーズ (国際的なネットワークを有するオークションハウス) を、1982年にイスラエルに設立した人物である。1994年サザビーズ・イスラエルのマネージング・ディレクターに就任し、サザビーズ・ヨーロッパのシニア・ディレクターとなる。その後2006年にサザビーズ・イスラエル会長に任命され現職に至る。

その他にもイスラエル・フィルハーモニー・オーケストラ財団、イスラエルの中西部テルアヴィヴ・ヤッフォ地区にある青少年学校「Muzot」や、テルアヴィヴ現代アートセンター (Center for Contemporary Art - Tel Aviv) の取締役員をするなど、様々な分野にわたり文化支援に携わる活動を行っている。また、ベツアルエル美術アカデミーの美術学修士号の教育プログラム作成やイスラエル博物館の美術作品の収蔵委員会「ここで、今 (Here and Now)」の共同委員長でもあり、次世代のキュレーターやアーティストの人材育成やイスラエルの文化資源を後世に残すための活動も行っている。^{*8}

4-3 Artis : 助成プログラム

Artis の展覧会や作家、キュレーターに対する助成プログラムは2007年に発足し、これまでに、様々な国で行われた多数の展覧会に関わってきた。助成申請にあたっては、「公共プログラム (Public Programs)」、「助成金プログラム (Grant Program)」、「専門家育成 (Professional Development)」の3つのカテゴリーがあり、受付時期は年2回設定されている。毎年、10~15組の機関・団体および、10名前後の作家やキュレーターに対して助成金を支給し活動を支援している。2010年~2012年の3年間で支援した人数は合計37名。助成金を複数回受けることも可能である。助成を受けた作家とキュレーターの内訳は、写真家2名、映像作家19名、インスタレーション作家6名、ドローイング作家4名、キュレーター2名、うち複数回助成を受けた作家が3名となっている。^{*9} ミッションの原文にも支援対象を「contemporary visual artists」と記載しているように、主に視覚的な芸術表現をしている作家を対象にサポートを行っていることがこれらの数字からもわかる。

またこの内訳のなかで、映像作家の割合が突出して大きいのは特徴的である。現代アートにおいて、従来映像を主として扱っていなかった作家でも、必要に応じて映像作品を手掛ける傾向は一般的にも見受けられるので、アートにおける映像表現の一般化の表れともいえるが、同時に映像という物的には簡易に流通可能な作品を扱

註7 以下原文。Mission: Artis is a 501(c)3 nonprofit organization that supports and promotes contemporary visual artists from Israel internationally. We advance opportunities for cultural understanding and dialogue through artist commissions, lectures and events, exhibition and professional development grants; research trips to Israel for arts professionals and collectors; professional development initiatives; and our online resource, www.artiscontemporary.org.

Recognizing the complexity of national identity, our programs support outstanding and diverse artists who have lived or worked in Israel. We are driven by the power of art to foster cultural dialogue, inspire individuals, and mobilize social change. Founded in 2004, Artis is based in New York with activities in Los Angeles and Tel Aviv. (Artis 公式ウェブサイト <http://www.artiscontemporary.org/> に記載。) 日本語訳は、ウェブサイト「アージェント・トーク012: イスラエル美術の現代」(森美術館, 2012年5月) から抜粋

註8 「The Israeli Presidential Conference」公式ウェブサイトに掲載の略歴を参照 (URL:<http://www.presidentconf.org.il/2012/en/speakerNew.asp?rld=942>)

註9 Artis 公式ウェブサイトに記載

う経済性が、国際発信の機会を得るうえでも有効に働くという点も一因にあるかもしれない。

2009年9月の雑誌記事によると、イスラエル政府が芸術資金調達
の削減し続けていた時期に、Artis による国外在住のイスラエル作
家に向けた財政的な援助が顕著であったという。^{*10}2007年には、国外
向け文化促進の総予算が総計410万ドルに留まり、当時ニューヨー
クの元イスラエル文化大使館の職員だったヨラム・モラド Yoram
MORAD は、イスラエルの文化に資金提供する支援を受けるため
には、民間団体から資金を集めなければならなかったと述べていた。
また同じ記事で、Artis ニューヨーク・オフィスのスタッフであるヤ
ール・ラインハルツ Yael REINHARZ は、「イスラエルに関する認
知は、領域における紛争についてのメディアによる報道によって支
配的に規定されてしまっており、文化はその陰で存在感が薄い。私
たちは、イスラエル多面性を提示し、対話に加わっていきたいし、
その対話は批評的なものであり得る」。「私たちのミッションは、イ
スラエル・アートを国際的に支援し目に触れる機会を作ること、そ
れをまずアメリカとヨーロッパで始めることだ」と述べた。^{*11}

註10 Artis 公式ウェブサイトに掲載の
プレス資料「“Artis” in Programma
Magazine (September 2009)」を参照
(URL:<http://www.artiscontemporary.org/media/files/0953c98b38b2909c3e1ab4d3277b3d72.pdf>)

註11 同上

4-4 Artis：海外キュレーターと国内作家との交流促進

Artis には、組織や作家向けの助成プログラムのほかに、もうひと
つ力を入れているプログラムがある。それは様々な国のキュレー
ターたちを定期的にイスラエルに招き現地調査を行う、「イスラエル
調査旅行 (Research Trips to Israel)」だ。

これも助成プログラム同様2007年から始めたプログラムで、今ま
でに2007年10月、2008年5月と9月、2009年9月、2010年6月と
11月、2011年4月と10月21～27日、23～29日で合計9回実施して
きた[写真4～5]。

5年間で、58人ものキュレーターがこのプログラムでイスラエル
を訪れていることになる。訪れたキュレーターは美術館やギャラ
リーをはじめ、オルタナティブ・スペースなどを訪問しイスラエル・ア
ートシーンの現在を知る機会を得る。同時にこのプログラムで
Artis が重要視しているのは、キュレーターと現地在住作家との対
話だ。直接的な交歓により、作家の置かれている状況と制作活動に
身近に触れ、その体験をキュレーターがそれぞれの現場に持ち帰り、



写真4 「キュレーター調査旅行」2008年5月(ヘルツリヤ現代美術館)
写真提供: Artis



写真5 「キュレーター調査旅行」2012年10月(ヘルツリヤ現代美術館)
写真提供: Artis

今後のパイプ役として機能することで、イスラエル国内に在住する作家の活躍の舞台を海外へと繋げていく環境を創出しているのだ。それは、ニュース報道で政治的問題ばかりが取り沙汰される中、イスラエルの盛んな現代アートシーンを紹介することによって、支配的なイスラエル観に対し、多面的な見方を提案するチャンネルでもある。Artis のミッションにも謳われているとおり、「ナショナル・アイデンティティの複雑さを認識し、文化理解や文化的対話の促進」に強く結びつけるための、重要なプログラムだ。^{*12}

政治的な問題が特に多く取り上げられるのが現在のイスラエルであるが、一方でその社会の成り立ちの複雑さや緊張感ゆえにこそ、切実に裏付けられた優れた表現もまた生み出されている。創作の現場に近い環境を、キュレーター達が取材できるというこのプログラムは、作品を政治的な状況や支配的な言説を踏まえながらも、それに絡めとられることなく適切に提示する契機となるだろう。

註12 Artis 公式ウェブサイト「Mission」を参照 (URL:<http://www.artiscontemporary.org/>)

4-6 Artis : 公式サイトでのイスラエル現代アート発信

Artis の公式ウェブサイトは、国内外からイスラエル・アートに関する様々な情報を入手することのできる媒体として機能している。動画や記事、アートガイドや展覧会リスト、その他のニュースなど、常に新しい情報が様々な形で更新されている。内容が作家や作品紹介に偏らず、イスラエル・アートに関するキュレーター、批評家、研究者の活動までも知ることができる。Artis を介して、イスラエルのアートシーンに関する動向が違い、国外からもイスラエルの直近の情報を手に入れるインフラが整備されている。

4-6 Artis : 組織体制

Artis は3都市にオフィスを構え、コンパクトながらも、それぞれに必要な分野の人員を配置している。ニューヨーク・オフィスには、これまでに視覚芸術非営利団体及び、営利事業で経験を積んできた人材がいる。ヤール・ラインハルツは Artis 設立6年目で予算規模を3倍にするのを補助し、Artis 最初の従業員となり現在は執行役員として勤務している。ロサンゼルス・オフィスでは、20世紀および現代アートを専門とする芸術アドバイザーがおり、Artis のコンサルタントをしている。テルアヴィヴ・オフィスではテルアヴィヴで2年に一度開催されているテルアヴィヴ・ビエンナーレの設立者など国内で開催される国際的なアートイベントのキュレーターがいる。

組織体制においては、シンポジウムや講義、大規模な作家とコミッションして行う展覧会などのプログラムの開催、Artis のウェブサイトのコンテンツの編集や開発監修、マーケティングにおいて積極的な戦力プランニング、個人及び機関の資金管理、助成プログラムや専門的な研究者の現地調査プログラムを担当するポジションがある。このような国際展の要請にも専門的に応じることができるような組織構成と人員配置により、Artis は経済的なサポート以外にも、組織として文化発信をバックアップする体制を整えていることがうかがえる。

5 おわりに

2013年10月25日にテルアヴィヴ現代アートセンターにて「適切な事例：グローバルなコンテキストにおけるキュレーション^{*13}」というテーマで、LA x ART（ロサンゼルス）、Iniva (Institute of International Visual Arts) (ロンドン)、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）からキュレーターを招いた報告会が開催され、それぞれの国際的活動業績や展示スペースとしての機関そのものの在り方についての発表が行われた^{*14} [図2]。このイベントは現代アートセンターと Artis が企画しており、出席したのは、いずれも Artis の活動実績がありこれまでイスラエルの現代アートを多く紹介してきた国の機関である。

Artis はこのイベントに合わせ、イベントに参加するキュレーターたちに対し、Artis の現地訪問プログラム「イスラエル調査旅行」を用意した。既存のプログラムを国内の横のパイプと併用し繋ぎこんでいくことで、イスラエルのアートに対して新たな価値や意味を付与し共有する機会を継続的かつ発展的に持つための不断の活動のひとつである。Artis は、自国と他国とを繋ぐパイプ役として機能することで、有効な交流を促しているのだ。

イスラエルは国家の成立過程ゆえに、政治的な問題を前面に出して語られる国である。当然ながら、国民の政治に対する問題意識も極めて高く、それを引き受けるような文脈の上で成立した作品も多い。歴史的、政治的に複雑な状況にさらされてきたイスラエルという国のアートを、一般的に政治的な関心が薄いと言われる日本の観客が受容することは、いかなる意味を持ちうるのか。そこには背景の誤解や、メッセージの誤読を含めた様々な困難がともなう。例えば、国家の存続のために自国の存在意義を強く主張していかなければならないという切実さが、日本の観客にはどのようなフィルター越しに伝えられ、理解されるのかといった提起が必要であろう。

今回とりあげた Artis は、文化的価値を国外に発信すること、そしてその営みをつうじて繋がる対話の機会の開拓こそが、他国がイスラエルを捉える際に生じる文化観の差異を解消するための基本的なアプローチを体現している。地道だが、的を射た活動の積み重ねをつうじて、政治的情勢の問題定義を超えた作品の魅力を引き出す機会を創出し、国際的に活躍する道筋を確かに作っているように思われる。

(やまだ・あすな 東京都写真美術館 インターン)

[参考文献]

- 『イスラエル現代美術展』（読売新聞、1962年）
- 『アリエル= Ariel: イスラエル文学芸術関係評論レポート』（イスラエル大使館、1977年）
- 『イスラエル現代彫刻展』（福岡市美術館、1991年）
- 『未来の記憶: イスラエル現代美術展』（佐賀町エキジビット・スペース、1994年）
- 『イスラエル美術の近代: 新千年紀へのメッセージ』（神奈川県立近代美術館、2001年）
- 『イスラエル美術の現在: 新千年紀へのメッセージ』（埼玉県立近代美術館、2001年）
- 『Ariel: The Israel Review of Arts and Literature』（イスラエル大使館、1998年）
- 『Pen BOOKS ユダヤとは何か。聖地エルサレムへ』（ペン編集部、阪急コミュニケーションズ、2012年）

Web サイト [Artis: Home] : <http://www.artiscontemporary.org/>

註13 原題は、「Case in Point: Curating in a Global Context」

註14 LA x ART からはラウリ・ファーステンバーグ Lauri FIRSTENBERG、Iniva からはテッサ・ジャクソン Tessa JACKSON、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館からはサンドヒニー・ポダール Sandhini PODDAR を招いて行われた



図2 「適切な事例：グローバルなコンテキストにおけるキュレーション」（テルアヴィヴ現代アートセンター、2012年10月25日開催）のグラフィック・ロゴ

東京都写真美術館 紀要 No.12

編集 東京都写真美術館
デザイン 柴永文夫 + 中村竜太郎
印刷 光写真印刷株式会社
発行 公益財団法人東京都歴史文化財団
東京都写真美術館 ©2013
〒153-0062 東京都目黒区三田一丁目13番3号
電話 03-3280-0099 (代)

The Bulletin: Tokyo Metropolitan Museum of Photography No.12

Edited by Tokyo Metropolitan Museum of Photography
Designed by Shibana Fumio, Nakamura Ryotaro
Printed by Hikari Shashin Printing Co., Ltd.
Published by Tokyo Metropolitan Foundation for
History and Culture
Tokyo Metropolitan Museum of Photography ©2013
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo, 153-0062 Japan
Phone: 03-3280-0099

Metrop

Tokyo Metropolitan Museum of Photography

Mus

Photos

